



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
10月の休館日：1月・9火・15月・22月・29月

- 10月7日(日) 13:30~
お楽しみコンサート「芸術の秋」
☆迫力あるキーボードオーケストラの演奏と、映像を交えた音楽物語など、盛りだくさんの内容です。
出演 キーボードオーケストラ「楽」
【鑑賞無料】
- 10月12日(金) 18:30~
市民に贈る「吹奏楽の夕べ」
フリヂストーン吹奏楽団久留米演奏会
※入場券の配布は終了しました
- 10月20日(日) 18:30~
天体観望と音楽を楽しむロマンチックコンサート!!
スカイウォッチャー演奏会
【自由】シングル券200円、ペア券300円【好評発売中】
- 11月10日(日) 19:00~
アリス=紗良・オット ピアノリサイタル
【自由】3,000円【好評発売中】
- 11月11日(日) 14:00~
県民創造ミュージカル フロタキコ
【自由】1,000円【好評発売中】
- 12月2日(日) 14:30~
人形劇団京芸「潜水海賊キャプテン・グック」
会場 みずほ文化センター・ホール
【自由】シングル券 1,200円(当日1,500円)
ペア券 2,000円(当日2,500円)
【好評発売中】
- 12月12日(水) 18:30~
劇団四季 ミュージカル「エビータ」
【指定】S席8,400円、A席6,300円、B席5,250円
【好評発売中】
- 12月16日(日) 14:00~
第10回記念 ひこね市民手づくり第九演奏会
指揮者 松尾葉子
【自由】1,500円(当日2,000円) 【好評発売中】
- 1月27日(日) 14:00~
〈事業協力〉**オペラ物知り講座 in ひこね**
☆観客席から見ただけでは分からない、オペラの成り立ちや秘密を、生の演奏とさまざまなエピソードや解説を織り込みながら、ハイライトで楽しむ講座です。
【自由】1,500円(当日2,000円) 【好評発売中】

ひこね市民大学講座

第3講 10月13日(日) 14:00~
「21世紀の提言 ~新しい世代を育てる~」
金 美齡さん(JET 日本語学校理事長、評論家)
☆料金：全席自由 4,000円 【好評発売中】
※未就学児の入場はお断りします。

マーク：託児サービスがあります。(要予約)
※公演日の1週間前までにご予約ください。
マーク：公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
10月に休館日はありません。

入館受付時間 8:30~17:30

※築城400年祭開催期間中は、開館時間を上記のとおり延長します。
なお、10月25日(休)、同26日(休)は展示替え作業のため、入館受付は17:00までとさせていただきます。

百花繚乱 -彦根歴史絵巻-

10月26日(金)まで
巻の7 「よみがえった国宝・彦根屏風と湖東焼の精華」

保存修理後初の「彦根屏風」のお披露目です。部分の拡大写真や、修理の際に新しく分かったことも公表します。あわせて、幕末明治の彦根を華やかに彩った、湖東焼の優品を紹介します。

▲湖東焼 金欄手 芦雁図水指 ▲彦根屏風 (かぶき者)

10月27日(土)~11月25日(日)
巻の8 「戦国から泰平の世へ -井伊直政から直孝の時代-」

泰平の世に向けて奔走した井伊直政・直孝父子の足跡を通じて、江戸時代のいしづえを築いた400年前の社会を振り返ります。 井伊直政像▶

観覧料が必要です

ギャラリートーク
「戦国から泰平の世へ-井伊直政から直孝の時代-」
10月27日(土) 14:00~15:00
解説：本館学芸員 野田浩子(のた ひろこ)
※事前申し込みは不要です。当日館内講堂にお集まりください。

ほんのりの世 -徳川譜代大名筆頭・井伊家伝来の名宝-

譜代大名筆頭・井伊家に伝来した大名道具を中心に、日本の美と歴史にせまります。「武器・武具」「能面・能装束」「茶道具」「湖東焼」「雅楽器」「調度」「絵画」「古文書」などの名品・逸品が次々と登場します。

常設展の名品

市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294
10月の休館日：2火・9火・16火・23火・30火

7日(日) 10:00~12:00
フェスタ・エアロビクス
☆3人のインストラクターのレッスンを体験し、楽しむエアロビクスのお祭りです。

インストラクター
北 京子さん・沢田喜久さん・足田幸子さん
会場 市民体育センター第1競技場
対象 市内在住・在勤・在学の人(中学生以上)
定員 100人
参加費 1人500円(ドリンク付き)
申込方法 前日までに、電話で市民体育センターへ

ときよの玉手箱

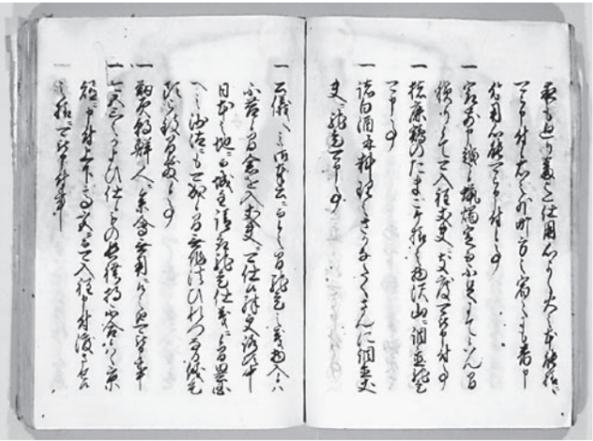
博物館からのメッセージ



第134回

井伊直孝の心配りー朝鮮通信使を迎えるにあたってー

寛永13年(1636)11月21日、朝鮮通信使の一行約500人が彦根にやってきました。江戸へ向かう道中、彦根で一泊するためです。



井伊直孝が家臣へ宛てて、通信使のもてなしについて指示した書状の写し

これは、江戸時代に入って4度目となる使節でした。それまでは、豊臣秀吉による朝鮮出兵の戦後処理が主な目的でしたが、今回は、それが落着いて、泰平の世を祝うための通信使です。このころは、外国との関係全般が固まりつつある時期でもあり、朝鮮との関係構築もそのなかで重要な課題でした。通信使を迎える彦根では、藩主井伊直孝は不在でした。寛永9年(1632)に亡くなった、先代將軍秀忠の遺言により、直孝は將軍家光の後見を勤めており、江戸を離れることができなかったからです。

通信使の対応においても、直孝には重要な役割がありました。通信使を迎えるにあたっては、応接を担う対馬藩主宗氏が幕府と協議します。まずは老中土井利勝・酒井忠勝が対応し、政治的判断を要する問題では、最終的に直孝も協議に加わります。例えば、両国で

このように直孝の姿は、朝鮮にはどのように映っていたのでしょうか。直孝が通信使から受け取った書翰では「日本国執政」という肩書になっており、国政を執行する人物と認識されていたことがわかります。 国政に携わる身として、彦根へ戻れない直孝は、地元に通信使を迎えるに

あたり、家臣へ宛てて何度も書状を送り、詳細な指示をしています。宿舎の設備や食材の調達にはじまり、「高官の乗る馬は良い馬を選べ」「掃除を念入りにせよ」など、具体的に伝えていきます。 その甲斐もあって、対馬藩の記録には、「彦根のもてなしは特に念入りだったので、使節は厚く御礼を申された」と書き残されています。

新たな時代の友好関係を築くことに力を注いだ井伊直孝。その視線は、外交の枠組から、もてなしの細かな配慮まで、広く行き渡っていました。国元での家臣によるもてなしにまで神経を注いだのは、これが直孝に対する第一印象となり、江戸での対面を前に、直孝の、ひいては幕府への好印象につながるという意図からでしょうか。

(彦根城博物館学芸員 野田浩子)
写真の史料は、10月27日(土)~11月25日(日)に開催される、国宝・彦根城築城400年記念特別企画展「百花繚乱-彦根歴史絵巻-」巻の8「戦国から泰平の世へ-井伊直政から直孝の時代-」で展示します。